

この地域は、かつて那須藩だった。那須藩は家督問題でトラブルがあり、取り潰しになった。宇都宮街道街道が整備された頃は、江戸幕府の蔵入地参考文献『国史大辞典』第10巻。





現在の百村宿の様子



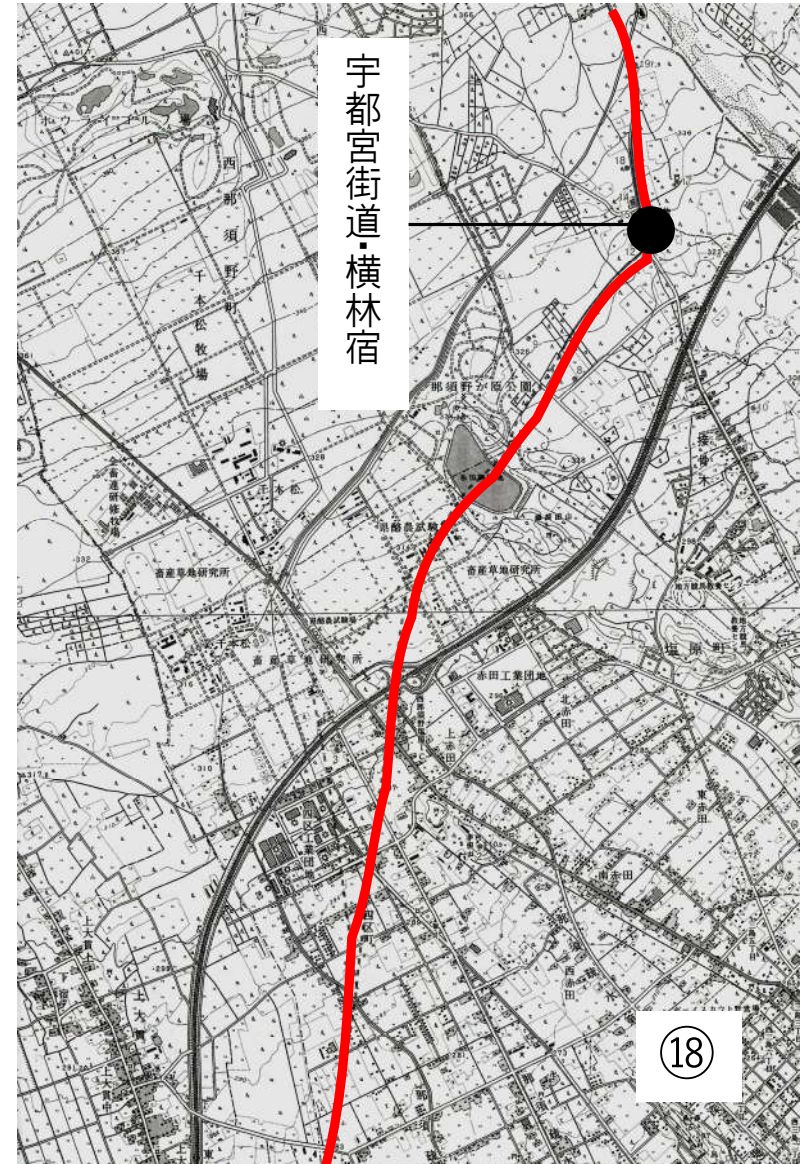
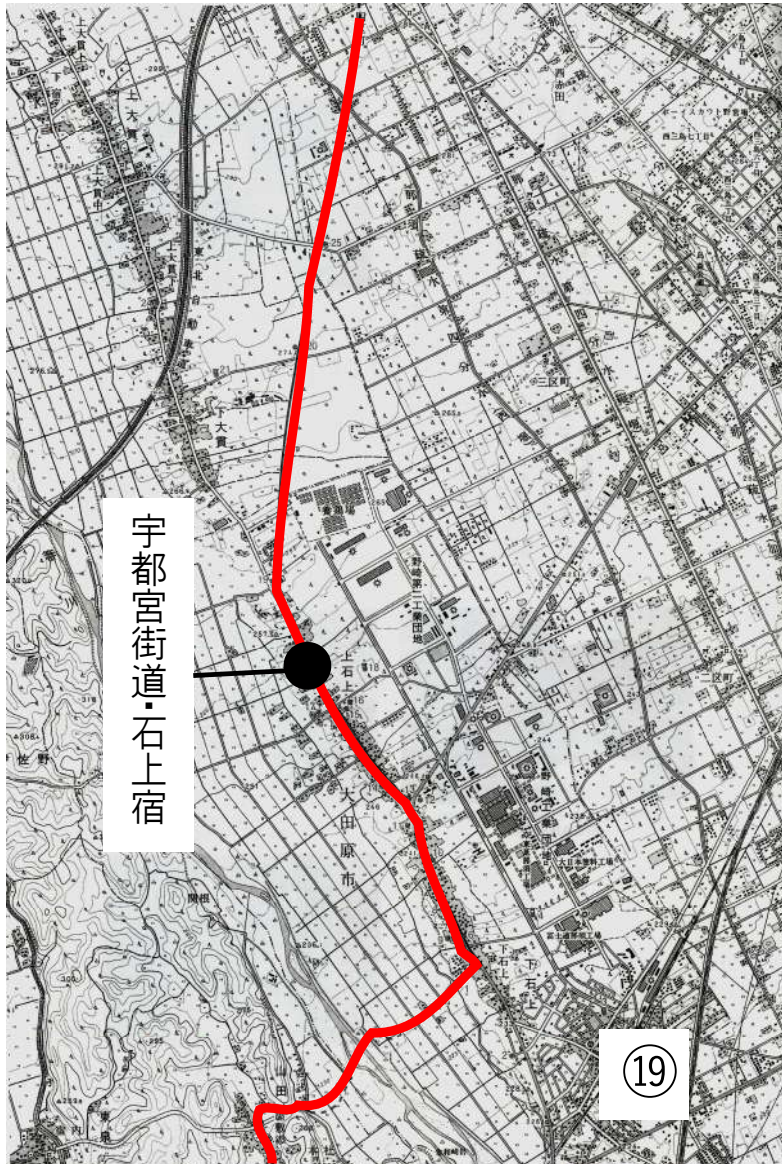
百村宿光徳寺の杉並木



高林宿の一里塚

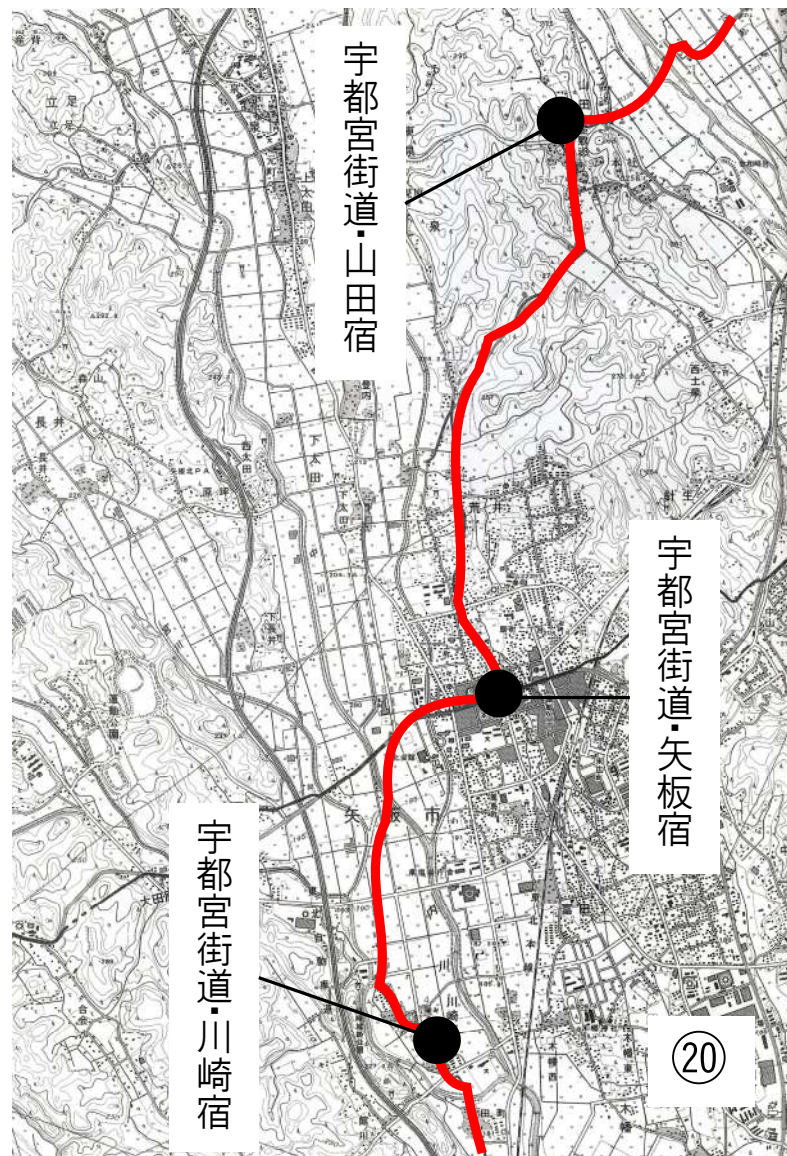
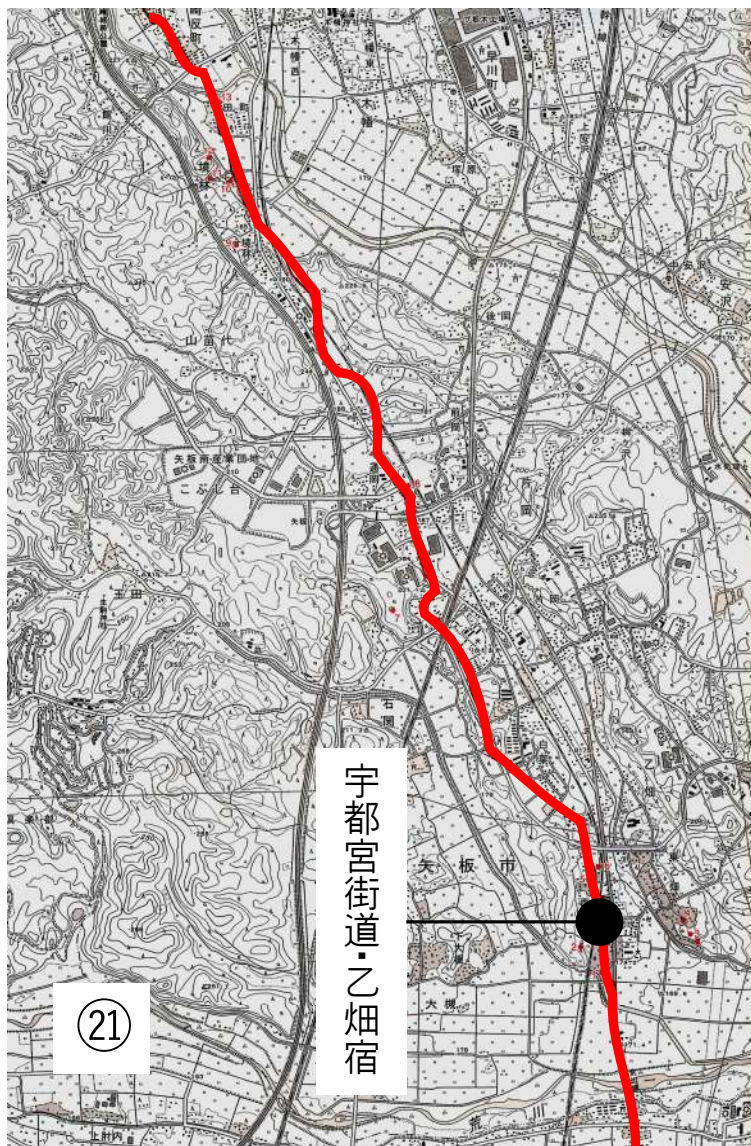


横林宿の一里塚





現在の石上宿の様子





現在の山田宿の様子



山田宿問屋・伊藤家の敷地内の千年カヤ



現在の矢板宿の様子

かわ さき そり まち
川 崎 反 町

川崎反町（「そり」とは村落の意）は、古くは木幡から幸岡方面に至る道沿いに散在する集落でした。天和3年（1683年）大地震による山崩れのため、五十里湖が出来て、会津西街道が不通になったため、三斗小屋を経由する会津中街道が川崎を通ることになりました。これにより問屋、酒屋、商家が軒を連ね旅人等でにぎわいました。会津西街道の復旧後も荷駄の中継地として宿場町を形成していましたが、鉄道の駅が現在地に設置されてからは、静かな農村集落となりました。今も残る、町並みや屋号から往時をしのぶことができます。

川崎宿の案内看板



現在の川崎宿の様子



川崎宿から望む高原山 奥会津の、縄文時代に石器の材料として用いられた黒曜石のほとんどは高原山から産出したもの。高原山の黒曜石は八十里越を経て三条長野遺跡からも出土する。



栃木側から見た、宇都宮街道・乙畑宿の入り口

会津中街道（江戸と会津を結ぶ道）

この街道は旧会津中街道と言い、阿久津河岸（さくら市）から会津若松市（福島県）まで 123 km（31 里 10 町 57 間）の行程をいう。

会津西街道が 1683 年（天和 3 年）の日光大地震により男鹿川がせき止められ五十里湖が出現し、街道が遮断されたため急きょ会津藩ではその代替道として会津中街道を 1695 年（元禄 8 年）10 月 9 日に完成させた。

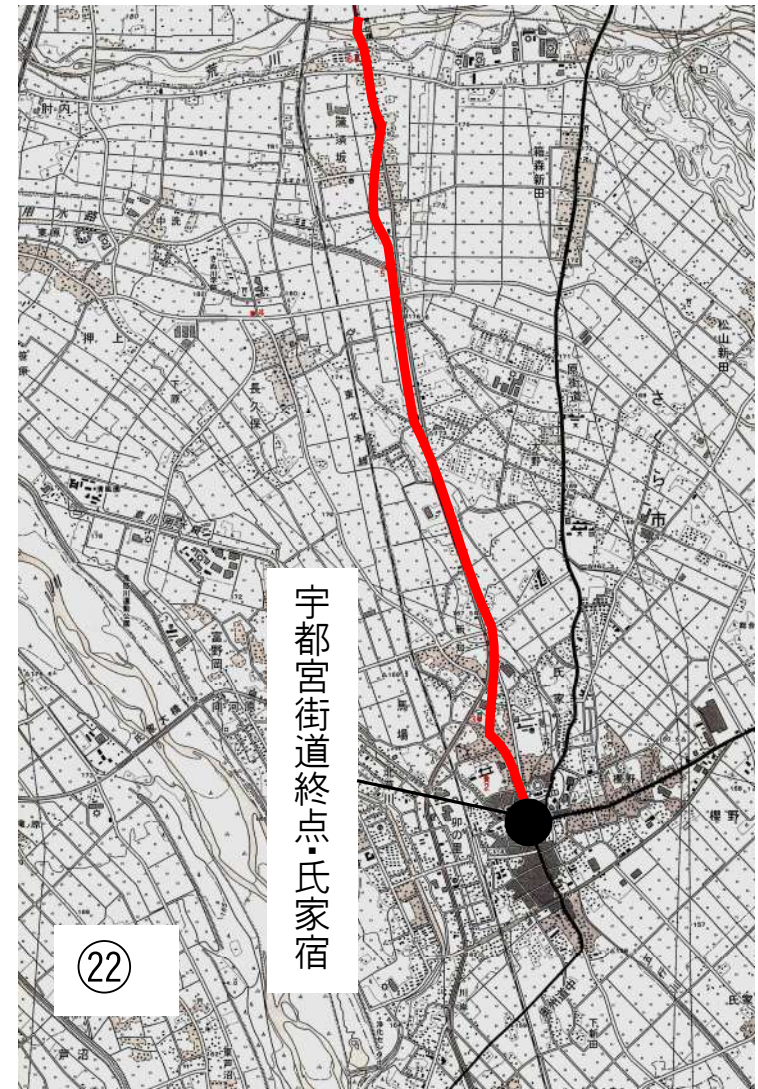
この街道は、江戸時代の重要な街道で 18 の宿場があり、氏家宿、乙畑宿、川崎宿、山田宿など会津若松まで続き、江戸から 33 番目の一里塚があった。

宿場には問屋が置かれ、旅人の宿泊や宿場と宿場をつなぐ人馬の提供、飛脚など当時を伺い知ることができる。1696 年（元禄 9 年 4 月 6 日）には会津藩 30 万石第 3 代藩主松平正容公が参勤交代で公式に通行し、又、会津から江戸までの会津米の搬送にも利用されていた。

平成 28 年 12 月
乙畑郷土史研究会



乙畑宿の一里塚(有志による復元)





第二節 道筋の確定と沿道の文化財

一 氏家宿から山田宿へ

① 氏家宿から荒川へ

さくら市氏家の中心街を南北に走る一般県道上高根沢氏家線は、かつての奥州道中であつた。伝馬町・本町・中町と北進し、上町交差点で右折する。このまま八キロメートル余り東に進むと旧喜連川宿である。この交差点から五〇メートルほど進んだ所に、北西の方角に細い道が伸びている。これが会津中街道で、福島県会津若松市に至る街道の起点である。「奥州道中分間延絵図」(以下「分間延絵図」と略記)によれば幅三間とあるが、現在では三メートルほどの道幅しかない。

この辺りは「一番街通り」と呼ばれ、道の両側に店舗が並んでいる。その中に、老舗を思わせる「丁子屋」とか「小銭屋」といった看板が見受けられる。この丁子屋は、文政九年(一八二七)の助郷人馬宿にも登場している。



氏家宿の会津中街道起点 さくら市氏家

一方、前記の交差点を左折して東北本線氏家駅方面へと向かう。ここは「琴平商店街」と呼ばれている。一〇〇メートルほど歩くと、右手に「琴平神社」(一)と書かれた小祠が立っている。この角に高さ一・五メートルほどの馬頭観世音があり、その台座には「東奥州路南江戸路 西羽黒路」とある。願主は氏家宿馬講中であるが、これは、新陸羽街道(後の国道四号)開設の際にここに移設されたものという。

ここで起点に戻って五行川の支流沿いの細道を一五〇メートルほど進むと、前記の県道に合流する。ここは変則の五差路となっていて、少し進むと、右手奥にさくら市役所の庁舎が見える。ここが会津中街道と会津西街道との追分であるという説もあるが、ここでは

宇都宮街道の駅所の齟齬

表4 会津中街道 宿駅の概要

	宿 駅 名	開宿当時の 所属村町名	村高(石高) 石 斗 升	家 数	間 屋	次 宿 間 距 離 里 町 間	同キロメート ル換算	本 馬 (文)	軽 尻 (文)	割 増 料 金
1	氏 家	氏 家 村	2189.5.0	170	2	1.27.54	約 7.08	52	33	
2	乙 畑	西乙畑村	260.9.2	14	1	1.28.41	約 7.17	53	33	
3	川 崎	川崎反町村	577.4.9	22	3	25. 5	約 2.78	21	13	
4	矢 板	矢 板 村	538.2.4	58	1	1. 4.15	約 4.46	33	21	
5	山 田	山 田 村	885.2.3	64	2	35.45	約 3.96	29	18	
6	石 上	上石上村	665.4.3	42	1	2.13.10	約 9.44	70	44	
7	横 林	横 林 村	123.0.0	19	1	1.10.54	約 5.20	38	24	
8	高 林	高 林 村	579.0.3	21	1	1.23.42	約 6.62	49	31	
9	百 村	百 村	677.1.6	107	2	1. 2.26	約 4.26	32	20	
10	板 室	板 室 村	100.7.7	44	2	3. 2.54	約12.30	140	85	5割増
11	三斗小屋	板 室 村	※板室村に含む		1	2.34.00	約11.75	161	95	8割増
12	野 際	野際新田村	6.3.0	10	1	1.34.57	約 7.74	87	55	5割増
13	松 川	松 川 村	297.8.4	12	1	2. 1.54	約 8.06	62	38	
14	弥五島	弥五島村	636.7.8	16	1	2. 9.38	約 8.90	67	42	
15	小 出	小 出 村	171.8.4	29	1	13.52	約 1.54	12	7	
16	桑 原	桑 原 村	129.4.9	18	1	1.28.49	約 7.07	63	42	
17	小 塩	小 塩 村	197.6.2	10	1	23. 4	約 2.56	19	12	
18	香 塩	香 塩 村	340.6.5	43	1	1. 8.45	約 4.88	37	23	
19	面 川	面 川 村	922.8.7	49	2	2. 5. 7	約 8.41	63	40	
20	若 松	若 松 町	5961.6.1	3,028	1					
	総 計					31.10.52	約125			

1. 宿駅名・宿間の距離・駄賃については、元禄8年(1695)12月「覚」(那須塩原市百村・光徳寺文書)による。
2. 村高については、天保5年(1834)「天保郷帳」(国立公文書館デジタルアーカイブ画像データ)による。
3. 下野国側の家数は「下野国改革組合村」(天保年間1830~44)(『栃木県史』史料編 近世七)による。
4. 西乙畑の家数は『喜連川町誌』、横林村の家数は「那須塩原市横林・東泉家文書」による。
5. 会津側の家数は『新編会津風土記』、間屋数は『下郷町史資料集』第15集、若松町の家数は『角川地名大辞典』7 福島県による。
6. メートル法換算は、1間=1.848m、1町=110.88m、1里=3991.68mで行った。
7. 「本馬」の料金は、板室宿~松川宿の山間部以外で1里あたり約30文、「軽尻」は約19文であった。

会津西街道
会津中街道
大田原通会津道
原街道(原方道)
足尾道

栃木県歴史の道調査報告書 第三集

栃木県教育委員会

17小塩 18香塩 19面川は、『新編会津風土記』では、駅所となっていない